



国立病院機構(NHO)宇都宮病院院内広報誌

わかあゆ

WAKA-AYU



基本理念

私たちは、地域から強く信頼される病院を目指します
そのために、誠実で前向きで勤勉であるよう努めます

目次

20 夏 18
第48号
広報誌／年4回発行
発行：国立病院機構 宇都宮病院
発行日：平成 30年7月1日
発行責任者：沼 尾 利 郎

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| ■看護部長 未来の看護師づくり …… 1 | ■「看護の日」イベント …… 4 |
| ■リウマチ膠原病内科の紹介 …… 2 | ■第38回骨・運動器疾患に関する研修会を開催して …… 5 |
| ■長尺撮影って何? …… 3 | ■ふれあいスポーツフェスティバル …… 6 |
| ■臨床検査技師輸血技能研修を受講しました!! …… 3 | |

未来の看護師づくり

今年の4月1日に着任いたしました。当院が担う医療機能を最大限に発揮し、地域に貢献できるように頑張る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、未来の看護師を育てる取り組みについて、ご紹介します。

栃木県の看護師需給状況は、年々需要と供給の差は縮まっているものの、まだ足りない状況にあります。栃木県内には、看護大学4校、3年課程看護専門学校11校、准看護専門学校1校の合計16校の看護学校があります。

当院では、そのうち5校の看護学校の実習生を受け入れ、未来の看護師づくりのお手伝いをさせていただいています。毎年延べ2000人以上の学生さんが当院で実習をしています。

当院の実習のモットーは、『実習は楽しく、看護の魅力を伝える場に!!』です。病院という慣れない環境と初めて接する患者さんや医療従事者の中で、学生さんはとても緊張しています。また、看護計画を立案・実施・評価する看護課程の展開や実習記録など、やる事が盛りだくさんです。そのような中、「実習が楽しかった、当院で実習してよかった」思っただけのように、スタッフ一丸となって実習受け入れ環境を整えています。当院では、毎年、実習指導者講習会に職員を派遣し、専門的に実習指導ができる看護師を養成しています。また、毎月実習指導者会議を開催し、実習指導の問題や課題を検討しています。

未来の看護師づくりはそれだけではありません。毎年、『ふれあい看護体験』を実施しています。これは、看護に興味がある、看護師を目指したい高校生の方を中心とし、病院で1日看護体験をしていただくものです。実際の看護師の仕事を見学・体験し、看護師だからこそ味わえる喜び、やりがいなどをお伝えすることにより、一人でも多くの方が看護師を目指していただけるような体験会を企画しています。

これからの日本は少子化が進み、看護師になる人数は徐々に減っていくことが予想されます。AI（人工知能）が、いろいろな仕事の肩代わりになるよう開発も進められています。近い将来、看護もAIの力を借りるのは間違いないと思います。しかし、そのような変化の中でも、最終的には、患者さんの痛みに寄り添い、その苦痛を軽減する手助けをさせていただくのは、人間である看護師なのだと信じています。そのためにも、未来の看護師づくりにまい進し、栃木県全体の地域医療へ貢献していきたいと考えております。



看護部長
澤本 美佐緒



ふれあい看護体験の様子

リウマチ膠原病内科の紹介

リウマチ膠原病内科 高村 雄太

1 はじめに

NHO 宇都宮病院では2017年度より、リウマチ膠原病内科の外来診療を開設しました(週1回、水曜日)。膠原病診療の実際や最近の話題などを述べさせていただきます。

2 診療内容

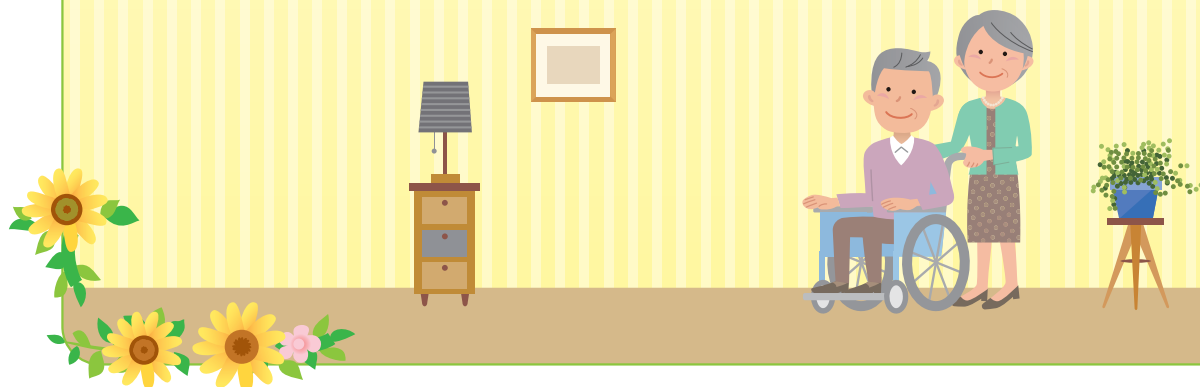
対象とする疾患には関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、皮膚筋炎・多発性筋炎、ANCA関連血管炎、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など多くの類似疾患がありますが、高齢者におけるリウマチ膠原病の有病率は近年増加しており、「慢性炎症と免疫低下が同時に起きている」ことが大きな特徴です。

3 疾患の特徴、最近の話題

- 1) 臓器障害が多い(関節、皮膚、腎臓、心血管、呼吸器、骨など)
- 2) 感染症の合併が多い(肺炎、尿路感染症、結核など)
- 3) がんの合併が多い
- 4) 似て非なる疾患が多数存在する(診断の困難さ)
- 5) 偽痛風(膠原病ではありません)やリウマチ性多発筋痛症などが増加
- 6) 検査法の進歩(抗CCP抗体など疾患特異性抗体の有用性)
- 7) 治療薬の進歩(生物学的製剤によりQOLは著しく向上)
- 8) 治療薬の副作用対策が必須(B型肝炎の再活性化、薬剤性間質性肺炎など)

4 おわりに

本疾患においては早期診断と早期治療による寛解導入と寛解維持が重要であり、診断に迷うケースは遠慮なくご紹介ください。整形外科や呼吸器内科などとの院内連携だけでなく、詳しい検査や専門的治療が必要な場合には大学病院とも連携の上で診療致しますので、今後とも宜しく願い申し上げます。



長尺撮影って何？

診療放射線科 放射線技師長 藤岡 等

「レントゲンを撮りましょう！」ということになった場合、胸部撮影を代表として、腹部撮影や四肢、腰椎などの骨の撮影などを一般撮影と呼んでいます。その中に長尺撮影と呼ばれる方法があります。長尺撮影とは、脊椎全長（主に頸椎から腰椎）、下肢全長（主に股関節から足関節まで）を一つの画像として提供する撮影です。長尺画像は脊椎側湾症の診断、股関節・膝関節・足関節などの加重関節の診断、下肢立位長尺撮影による距離計測などに用いられます。

フィルム（CR）を使用していた従来の長尺撮影では、2、3枚つないだ特殊フィルムを専用フォルダに入れて撮影していました。現在は一般撮影すべてがデジタル化され、フィルムを使用した撮影は行われていません。当院では、平成29年3月よりFPD（フラットパネルディテクタ）と呼ばれる装置を導入し、FPDが移動して画像を収集、合成して1枚の画像とする処理を行い、長尺撮影を行っています。FPDの装置の導入により、画像の画質向上、検査時間の短縮、被ばく線量の低減が可能となりました。

また、下肢立位長尺撮影を受けられる方は、同時に股関節、膝関節などを撮影される場合が多く、撮影方法・回数・時間に思わぬご負担をおかけする場合がありますが、放射線科スタッフは常に説明、協力を行うことを念頭に置き、安全に検査が行えるよう努めています。

最後に、撮影機器の進歩によって、より少ない放射線量での撮影が可能となりましたが、少なからず被ばくは避けられません。当院では安心して検査を受けられるよう線量管理に努めています。



フィルム(CR)



デジタル(FPD)

臨床検査技師輸血技能研修を受講しました!!

臨床検査科 副臨床検査技師長 松井 孝男

輸血とは、血液中の赤血球や血小板、凝固因子など（出血したときに血液が止まるように働く成分）の各機能や量が低下したときに、その成分を補充することを主な目的として行われます。従って必要な成分だけを輸血する成分輸血が輸血療法の基本です。輸血は安全な治療法ですが、わずかに副作用を認めることがあります。副作用を最小限に抑えるため、輸血前にはいくつかの検査を確実に実施して、安全を確認する必要があります。輸血用の血液について、一連の適合検査を実施し患者様の元へ届けているのが臨床検査技師です。臨床検査技師の中には、輸血に精通した知識を持ち、専門学会から認定された輸血に関するプロフェッショナルな検査技師もおります。今回は輸血治療がさらに安全に行え、患者様に安心して治療を受けていただくことを目的として、輸血に関する技能研修を行いましたのでご紹介致します。

一般に血液型は、A型、B型、O型、AB型に分けられます。輸血治療にとって最も重要なことは、この血液型を明らかにする血液型検査です。A型の人の赤血球表面には、A型の因子（A抗原という）があり、B型の人にはB型の因子（B抗原）、AB型はその両方、どちらも持たないのがO型です。血液型には、ABO型のほかに、Rhという型があり、Rhの中のD抗原を持っている人をRh（+）、持っていない人をRh（-）といいます。日本人の99.5%はRh（+）です。その他にも、ヒトの赤血球には多くの血液型が存在し、その血液型抗原に対して反応する因子（不規則性抗体という）の有無が輸血時の副作用に大きく関与しています。この不規則性抗体を持っているかどうかを調べる検査を不規則性抗体検査といい、ABO型の血液型検査と同様大変重要な検査です。

輸血を受ける患者様の検査が確定したら、次は、輸血用の血液製剤と患者様自身の間でよくない反応が起きないかどうかを確認するために、試験管の中で検査を行うのが交差適合試験といわれる検査です。これらの検査で異常を認めないことを確認した上で治療用の血液として病棟に送り出されていきます。万が一にも、誤った血液型の血液を輸血してしまうと、体の中で血液が固まったり、溶血したりするなどして、重大な事故につながってしまいます。このようなことのないように細心の注意を払い、緊急時であっても安全を優先して決められた手順を慎重に進めていくことが求められます。

研修を通じて、安全に輸血を実施するためには、輸血治療に携わるすべての医療従事者が、正しい知識と技術を習得しないとならないと強く感じるとともに、輸血における臨床検査技師の役割は、輸血検査の質的な向上は元より、血液製剤の適正な管理や、輸血副作用などのことも念頭に置き、幅広い知識と技術の習得が重要であると改めて痛感しました。

A B O AB Rh+ A B O AB Rh-



「看護の日」イベント



主任薬剤師 三 森 竜 司

5月16日(水曜日)の10時から13時まで、当院主催による「看護の日」イベントが、ヨークベニマル御幸ヶ原店さんの協力を得て行われました。当院でのイベントの開催は今回で12回目となります。今年も、当院をより身近に感じていただけるように、「国立病院機構宇都宮病院は、あなたの健康をサポートします」をテーマに様々な催しを企画しました。

測定コーナーでは、看護師による血圧、握力、肺活量、骨密度、足のかたち(フットプリント)の測定を行い、特に骨密度測定が最も好評でした。相談コーナーでは、医師・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカーによる各専門領域の医療相談に応じました。また、今回初めて運動コーナーを設置し、理学療法士によるロコモ体操を行いました。新たな企画を行ったこともあってイベントは大盛況で、多くの方に参加をいただきました。

参加いただいた方から、「毎年イベントを楽しみにしている」という暖かい意見をいただき、次回開催への活力となりました。

これからもこのようなイベントを通じ、地域の皆さんの健康のサポートができるように、努力していきたいと思います。



重心バランス



健康相談



血圧測定



ロコモ体操

第38回骨・運動器疾患に関する研修会を開催して

北4病棟 看護師長 相原久子

平成30年6月21,22日の2日間で研修生28名を迎えて、「地域につなげるチーム医療」をテーマに研修会を開催しました。この研修は平成5年から開催されており、今年で25年になります。

骨・運動器疾患では、治療後も日常生活が自立するまでに多くの期間を要します。そこでどの病院でも患者さんの希望に沿った在宅療養支援が課題として上がります。

今回、県内のケアマネージャーより、当院で手術を受けた患者が、退院後、自身の力を発揮しながら生活を継続している事例を通して、病院との連携でよかったこと、退院後の課題などのお話がありました。そして、情報提供内容のポイントを学びました。

研修生同士の意見交換では、患者の情報を更に詳しく把握してチームで共有できるようにしていきたい」「自分の部署でもできることから始めてみたい」などの声がきかれ、各施設の課題に取り組むためのヒントを得る有意義な内容となりました。

入院患者さんにとって病院の生活は短期間であり、本来の生活に戻っていくために医療者の支援は重要です。患者さんの退院後の生活を見据えて、安心して地域での生活が送れるようにもっと看護の関わりを深め、今回の研修での学びを患者中心のチーム医療の実践に努めていきたいと感じました。



田中孝昭 副院長



茶園昌明 整形外科部長

研修内容

高齢者の骨折と関節疾患

高齢者の脊椎手術

骨・運動器疾患患者の看護

メディカル・フットケア

運動器疾患のリハビリテーション

高齢者の退院支援



参加者

ふれあいスポーツフェスティバル

療育指導室 保育士 森本 靖菜

今年も重症心身障害病棟でふれあいスポーツフェスティバルが開催されました。入所されている利用者さんは朝からワクワクしています。広い訓練室にみんなで集まり、開会式の始まりです。今年の干支「戌」年の利用者さんが犬さんの姿に扮して入場！会場は一気に盛り上がります。更に今回、宇都宮のマスコットキャラクター、ミヤリーちゃんが応援に駆けつけてくれました！一緒に準備体操をしたり、必死に競技のお手本をしてくれたり、ミヤリーちゃんの活躍に会場は大きな笑い声と拍手でいっぱい。運動会らしい「玉入れ」、療育活動でもお馴染みの「だるまさんがころんだ」、みんなが大好きな風船を使った「リレー」等、利用者さんと家族、職員共に楽しめる工夫を凝らした競技に、笑顔と声援が飛び交います。昼食はこの日の為の特別メニュー。利用者さんの笑顔から「美味しい！」と感じているのが伝わってきました。午後は呼吸器を使用している利用者さんへ、みんなで作ったお花をプレゼント。大勢の人と関わるのが難しい利用者さんにとって、とても貴重な実りある時間となりました。

今年もたくさんの笑顔でいっぱいになったスポーツフェスティバル。参加して頂いた皆さんありがとうございました。



編集後記

もうすぐ暑い夏がやってきます。夏は暑いし、ジメジメするし…とつい悪いイメージが先行してしまいがちですが、夏といえばキーンと冷やしたスイカやトマト、瑞々しいきゅうりやなすなどおいしいものがたくさんあります。花火大会や盆踊り、七夕やプールなどわくわくするような行事もたくさんありますね。熱中症に十分注意しながら楽しく美味しい夏を満喫しましょう！

療育指導室 保育士 深澤 仁美



【能登半島の白米千枚田】
表紙撮影：庶務係長 鈴木智久

外来診療担当医表

(平成30年7月1日～)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合内科	午前			黒崎 史朗	沼尾利郎(第2・4・5週) 志水太郎(第3週)	志水 太郎 (第1・2・4・5週)
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔	菊池 朋子	平尾菜々子	佐藤 稔	森 豊
	午後	佐藤 稔		平尾菜々子	佐藤 稔	
神経内科	午前	作田 英樹			伊藤 雅史	
	午後	作田 英樹			伊藤 雅史	
物忘れ外来(午後・予約制)				伊藤 雅史		
消化器内科	午前	常見美佐子	菅谷 洋子	渡邊 詔子	菅谷 洋子	前田 光徳
	午後	常見美佐子	菅谷 洋子		菅谷 洋子	前田 光徳
呼吸器内科	午前	沼尾 利郎／ 梅津 貴史	野村 由至 鈴木 淳	安西真紀子	梅津 貴史／ 藤松 孝旨	野村 由至／ 池田 直哉
	午後	沼尾 利郎	鈴木 淳	安西真紀子	黒崎 史朗／ 藤松 孝旨	池田 直哉
禁煙外来(保険適用) (午後・予約制)					藤松 孝旨	沼尾 利郎
リウマチ膠原病内科				高村 雄太		
小児科	午後	影山さち子 [予約制]			影山さち子 子供療育相談ルーム [予約制](第2・4週)	影山さち子 [予約制]
外科	1 診	増田 典弘	芳賀 紀裕	滝田 純子	増田 典弘	芳賀 紀裕
	2 診	芳賀 紀裕	柴崎 雄太	芳賀 紀裕	山口 悟	滝田 純子
	3 診					田嶋 公平 (呼吸器外科)
整形外科	1 診	田中 孝昭	茶園 昌明	田中 孝昭 (第2・3・4週)	茶園昌明(第1・3・5週) 石川義久(第2・4週) (初診のみ)	熊谷 吉夫
	2 診	小牧 宏和	種田 雅仁	秋山昇士(第1・5週) 茶園昌明(第2・4週) 熊谷吉夫(第3週)	小牧宏和(第1・3週) 種田雅仁(第5週)	秋山 昇士
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷吉夫(第1・5週) 田中孝昭(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶園 昌明	茶園 昌明	熊谷 吉夫
装具外来		田中 孝昭				熊谷 吉夫
側湾症外来					茶園昌明(第4週)	
障害者歯科						石川 博之

外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30～11:00迄です。
緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 物忘れ外来につきましては、地域医療連携室にて電話での予約を受け付けております。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374(直通) FAX 028-673-1961(直通)
担当(ソーシャルワーカー)：永山・吉田・福富・高德(内線133)

- 下記は入院患者さんを中心として診療しております。

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
循環器内科	午前		田所寿剛(第1.3.5週) 伊藤 致(第2.4週)	鈴木菜穂子		伊藤 致(第2・4週)
	午後	渡邊 諒 (15:00～16:30)	田所寿剛(第1.3.5週) 伊藤 致(第2.4週)	鈴木菜穂子		伊藤 致(第2・4週)
歯科		渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子
眼科(午後)						松原 忠之
皮膚科(午後)				西川 聡一		
耳鼻咽喉科(午後)		永島 祐美				

- 診療時間は8:30～17:15迄です。
- 休診は土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)です。
- 都合により臨時休診になる診療科もありますので、ご確認のうえ、ご来院ください。



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

<http://un-hosp.jp/>